



カーフリーデー
ふくい
2011
特集

ホジロバ+α
田原町

☆☆活動報告☆☆

9 月 16 日 ROBA 例会・第 90 回理事会
17 日
カーフリーデーふくい 2011 in 田原
27 日
カーフリーデー第 7 回実行委員会（最終）
10 月 1 日～2 日
全国まちづくり会議（さいたま市）
11 日 えちぜん鉄道活性化連携協議会

10 月 14 日～15 日

カーフリーデーワークショップ&セミナー（東京）
21 日 ROBA 例会・第 91 回理事会

☆ ★今後の予定★ ☆

11 月 3 日（木） 福井市環境展
11 月 4 日（金）～5 日（土） LRT 都市サミット in 富山
12 日（土）～13 日（日）
中部地区地方鉄道サミット（桑名市）
全国バスマップサミット in 弘前
20 日（日） ROBA 例会・地域バス調査隊（越廼地域）

ゆうじんの部屋 書籍紹介

「規制」を変えれば電気も足りる。原英史

小学館 101 新書 700 円＋税

題名は電気の規制関係の本に見えるが、中身は規制改革全般を扱っている。この本の特徴は、理念をうだうだ書くのではなく、各分野で新規参入しようとする、こんなへんな規制で参入が難しくなるという事例をたくさん書いている。理髪店の月曜休業、ビールの税金、労働者派遣などおなじみの話が多いが、その理由も既存業者とその団体に天下った役人の利益保護というひとつの方向から光を当て一応体系立てている。多くの規制が法律ではなく政令以下の国会の議決のいらない世界で決まっているらしい。

法律を読むのが苦手な人にも簡単に読めるよう解説してある。原子力ほど極端ではないにしても、業界のルールは業界に入らないとわからないことが多いが、新規参入者は常に少数派である。それを倒せるのは多数の目覚めた消費者である。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

今年の特徴は、以下の3点です。

- 特色1：引いてもだめなら押してみな！
- 特色2：連携によるCFDメニューの充実！
- 特色3：ホジロバ以外の交通も充実！

特色1：引いてもだめなら押してみな！

⇒ MMによるCFDへの送り出し

特色1は、新駅開設地域でのモビリティ・マネジメント（MM）事業を組み合わせ、カーフリーデーに送り出す仕掛けをおこなったこと。参加者を呼び込むためだけでは限界があり、効果があると考えられる地域でMMセミナーを実施。

1日フリー切符で、カーフリーデーに行こう！

あわせて、福井鉄道福武線サポート団体等協議会も 一日フリー切符で参加した人にイベント通貨 500 円分 を配布する「送り出し事業」を同時に実施。

（詳細は、ROBANews 116号を参照）

特色２：連携によるCFDメニューの充実！

特色２は、実行委員会のメンバーによるイベントに加えて、後援メンバー及びそれ以外の団体の事業をCFDに合わせて実施していただき、CFDFのイベントメニューを充実させることができたこと。また、イベントメニュー相互の連携も充実。

■CFDFイベントメニューに組み込んだ事業

- ・バスの乗り方教室（福井県バス協会）
- ・休眠自転車リフレッシュ（福井県健康バイコロジー推進協議会）
自転車を修理 ⇒ サイクルトレイン（えち鉄）のチケット提供
- ・ホジロバ交通で参加 お米プレゼント（市環境パートナーシップ会議）
ホジロバで参加 ⇒ CO2削減分の新米プレゼント
- ・講演会「交通まちづくりの新展開」
（福井鉄道福武線サポート団体等協議会）
- ・のりもの絵本の読み聞かせ（地元グループ）
- ・地元とれたて野菜市（地元グループ）

■関連事業として当日に実施した事業

- ・「エコな電車っていいな」：電車でワークショップ（公共交通利用促進研究会）
- ・「屋涼みプロジェクト」：クールビズのために外出を推奨（県内の取組）

特色３：ホジロバ以外の交通も充実

特色３は、「クルマに頼らない交通」として、ホジロバ以外の交通も充実させたこと。

- ・福鉄型ミニ電車（右上）
（なぜか、すでに乗入れ！？案内表示が
福鉄武生発 えち鉄三国港行 でした）
- ・ゴムボートでまちなか川下り（右下）
（ボートからみた田原町の風景）
- ・おもしろ自転車「エコ丸くん」（左下）
（松原さんがハマっていました）





エコ缶バッチ、地元とれたて野菜市



のりものの絵本の読み聞かせ



ホジロバ交通で参加 お米プレゼント



バスの乗り方教室



横断幕もできたし、来年も楽しくやりましょう！！ この後片づけは大雨でした、雨男は誰だ！

今年の事前告知の方法

フリーペーパー「ファミール」に
おすすめイベントとして、無料で、右の
ような内容で、掲載していただきました。
これを見てきてくれた人も多かったかも。

また、昨年と同様にバスのポスターや、
電車の中づりも実施。2 ページ前の大きな
チラシはB3サイズです。

A4両面刷りのチラシをそのまま両方に
配置して、省力化を図りつつ、見やすく仕
上げることができました。



ファミールに掲載されたカーフリーデー告知

カーフリーデーの感想

(玉井 秀和)

私はミニ電車の受付にいましたが 同じ人が何回も 乗っていました。近くの人が多かったと思います。
雨の不安もありましたが 川下りも出来て 成功だったと 思います。結果は、マスコミにも 取り上げて
いただき 徐々に浸透してきているのでは。

それから、告知も十分とは 言えないので 来年以降の課題だと 思います。イベントメニューの中で、
オリエンテーリングは ほとんどする人がいなかったの で やり方などについて 考えることが必要だと。

メイン会場についてですが、せっかくのいい建物を遊ばせておくのは もったいないので 活用方法含
め検討する必要あるかと 思います。車が入れないように バリケードが 必要かと。

私自身 何もお役に立つことが できずにすいませんでした。関係各位様の努力に感謝します。

また 来年もより良い成果を出すべく 努力したいと 思います。

カーフリーデーを親子で楽しむ！

(三寺 潤)

昨年は行事が重なり参加できなかったカーフリーデーでしたが、今年は早い段階からスケジュールを
確認し準備万端！子供もお手伝い（！？）要員の一人として親子で参加しました。様々な団体とのコラ
ボということもあり、普段はお話できない方々とも会話することができ、とても充実した一日となりま
した。子供も日記に大きく絵を書いて先生に伝えるくらい思い出に残るイベントだったようです。イベ
ントを終えて来年の課題もたくさん見えてきました。来年こそは、時間をつくり計画段階から参加した
いと思います。皆様、本当にお疲れさまでした！…そして、元気な息子に長時間つきあっていただいた
松原さん、スタッフの皆さま、本当にありがとうございました！また来年も楽しく頑張りましょう。

宇都宮浄人氏講演会報告

去る9月17日、カーフリーデーふくい 2011 in 田原町の一環として、また、地域交通を考えるシリーズ第2弾という位置づけで、関西大学経済学部教授、宇都宮浄人氏の講演会を開催致しましたので報告致します。

実は、この講演会はもう一つの位置づけがあり、9月4日に清明公民館、麻生津公民館でセミナーを開催したモビリティマネジメント事業の仕上げの講演会でもありました。



●撮影／鳥居 健

清明公民館・麻生津公民館でのモビリティマネジメントは福井市のミーティングテーブル事業の補助事業。福井鉄道福武線に清明駅と泰澄の里駅が開業したのに合わせ、両駅周辺の住民に対する意識啓発を行って、地域に駅があることの意義を認識してもらい、駅を自分たちの駅として認識し、福井鉄道福武線を利用・活用し、育てる意識を持ってもらうことを目的としたもので、当日の参加者にはフリーチケットを無償で配布して、17日のカーフリーデーに参加してもらうべく、送り出すところまでをモビリティマネジメントの事業としていました。そのため、このモビリティマネジメントのセミナーは、福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会との共催でもありました。

そして、仕上げの、宇都宮氏の講演会は福井鉄道福武線沿線3市の福井鉄道福武線サポート団体等協議会の講演会実施事業として、共催で開催しました。ちなみに、カーフリーデーふくい 2011 in 田原町自体も、福井鉄道福武線サポート団体等協議会のイベント開催事業（福井市実施分）として開催され、そのために福井鉄道福武線サポート団体等協議会の共催事業となっていました。

講演会の演題は『交通まちづくりの新展開』。講演では、宇都宮氏は現在のまちづくりの流れがコンパクトシティを目指すものになっていること、そして現在の過度にクルマに依存した社会が、環境や財政や高齢社会の問題を抱えており、公共交通を再構築すべき局面に来ていること、そしてそのために現在、国が交通基本法を準備していること等を話されました。その中で、福井がえちぜん鉄道や福井鉄道を存続させたことを「先見の明があった」と評価し、世界でLRTの整備が急速に進んでいることを示して、福井においては、えちぜん鉄道・福井鉄道の直通計画をはじめとした交通まちづくりが大きな可能性を持っていることを示唆されました。同時に、富山のようなカリスマ的な市長による交通まちづくりに匹敵する流れを、福井がそのようなカリスマ市長がいないなかで、市民団体やサポート団体が活動し、支えていることを高く評価されました。また、福井大学大学院教授の川上洋司先生との対談のなかで、一般論、福井における事情を含め、交通まちづくり・LRT事業は「まず、第一歩を踏み出すことが重要で、小さな事業から取りかかるだけでも、それが便利だと利用者から評価されれば、それが後押しとなって次の事業、さらに次の事業へと事業が展開でき、やがて総体で大きな交通まちづくり・LRT事業を完成させることができる」という話で、宇都宮氏、川上先生のお二方ともまとめて頂きました。

講演会には60名の参加者があり、サポート団体関係者、福井市や鯖江市職員の方々含め大勢の方に参加頂きました。参加者からの評価では、「これまで福井で様々な方が論じてこられた内容を、総合的・体系的に分かりやすくまとめて頂いた形の講演で、大変よかった」というものがあり、また、私も、福井の取り組みをきちんと評価して頂き、それにかかわってきた市民・行政・事業者等にとって、その選択や活動に改めて自信を持て、今後の活動の新たな推進力になるのではないかと感じました。たいへん貴重な講演会になったと思います。

(文：清水)

カーフリーデー福井 2011 in 田原町が終わって…

(報告 はたみゆき)

今年のカーフリーデーも、足早に終わってしまいました。スタッフ・関係者のみなさま、どうもご苦労様でした！来年もヨロシクね♪

さて、今年のカーフリーデーも！なぜか雨。確か晴れマークがズラリと並んでいたはず？なのに！ 待っていたかのような「雨」。カーフリーデーは雨！というジンクスが方々にも知れ渡り……色んな人から「やっぱり雨」だね。

と、言われるようになりました。

(別の意味で知名度がグングンあがってます；)

開始準備中の様子、
ほら、雲行きがあやしいでしょ。

午前中は時折、雨がパラつく程度でしたが、開催時間帯は、ほぼパーフェクトな天気で、日差しも強く暑い1日でした。今年も念願の「川下り」もできたし、新しい取組み満載で挑み、どのコーナーもお客様は喜んで下さった事が何よりです。

私の担当はお米コーナーでしたが、福井市内から来た親子は会場まで車で来た人が多く、クルマ以外で来た人は福井市外の親子や、中年層・熟年層が多かったように感じます。それから、クルマも大事だけど、「色んな交通手段が使えて選択できる」という状況は“いいもんだな〜”と理解し始めた人が大勢いたことも大収穫です。そして、まだまだ一部の人だと思いますが、お得な移動手段について考え始めてくれた。という声を実際に聞く事ができたので、これまでの準備疲れも吹っ飛びました！。

そして一番の収穫は、実行委員会の各団体さんが、「やらされている」という感じではなく、一緒にやっているんだ！という意気込みが感じられたことが、心温まる一場面でした。

カーフリーデーの取組みと一緒に、ふくいの電車・バスも大きく育つように、これからも宜しくお願いします。



実行委員会の様子（真面目にやっています）



▲自転車修理コーナー（自転車屋さん奮闘中！）



▲エコピントン 今年も現る！（来年も来てね）



▲小さなお客さんが来店。
臨時託児所開設中！



▲今年は大きな横断幕を作りました。良い感じでしょ♪



▲さすが元運転士
違和感ないね…

カーフリーデーワークショップ&セミナーに参加して

内田佳次

日 時：平成 23 年 10 月 14 日～15 日

場 所：主婦会館（東京千代田区 JR四ツ谷駅前）3階 コスモス

参加者：■国内CFD参加市民団体（5団体）

交通を考える研究会（仙台）岡田真秀さん

横浜カーフリーデー実行委員会（横浜）大内えりかさん

歩行者と自転車のまちを考える会（逗子）谷 守弘さん

NPO法人 ふくい路面電車とまちづくりの会（福井）内田佳次

NPO法人 しまづくりネット（那覇）中村 司さん

■国内環境・交通・まちづくり参加市民団体（3団体）

公益財団法人公害地域再生センター あおぞら財団（大阪）小平智子さん

NPO法人まちづくり推進機構（岡山）徳田恭子さん

バリアフリーデザイン研究会（熊本）丸山 力さん

■アジア環境・交通・まちづくり参加市民団体（2団体）

Action for the city（ベトナム ハノイ）ダン・フォン・ザンさん

持続可能な都市交通を目指す市民団体（モンゴル ウランバートル）アマルジャルガルさん

■ヨーロッパモビリティウィーク

欧州担当コーディネーター オリビエ・ラガルド氏

日本担当コーディネーター 望月真一氏

■アドバイザー

東京大学大学院工学系研究科教授 原田 昇氏

目 的：カーフリーデー参加都市の市民団体を中心に、全国各地の環境・交通・まちづくりの市民団体が集まり、全国各地の交通まちづくりの状況や課題について情報交換し、市民団体の交通まちづくりの活性化をはかるためのワークショップ&セミナーです。加えて、モンゴルとベトナムの市民活動団体も参加し、各都市の課題を共有しアジア全体における市民団体の役割も考える。

感 想：報告者が10団体あり、1団体10分程度での説明とあって、どの団体も駆け足の報告となり多少消化不良といった状況だ。各地域の課題の一つ財政面について、横浜はあれだけの規模でも実行委員会としては40万円とのこと。各参加団体毎の費用負担を原則にしているからできるようです。

また、意外にもウランバートル（人口110万）でも交通渋滞や交通事故さらには環境破壊が問題化している。アマルさんは東北大学と埼玉大学で日本アジア文化を学び、現在モンゴル科学技術大学で非常勤講師をしています。自転車の利用促進に力を注いでいるようです。

また、市民主導とはいえ行政との連携無くして成功はありえないところですが、行政は対応が遅いところが共通の課題みたいです。そして、人手、スタッフの少なさもCFD開催の課題としていることもわかりました。報告に時間がかかりすぎて意見交換の時間があまりなかったのが残念でした。

参加者は、発表者と来場者併せて約50名でした。



プレゼンする内田



パネル展示の様子



C F D ジャパン 望月さんと事務局谷本さん



ベトナムのダン・フォン・ザンさん（左）と
モンゴルのアマルジャルガルさん（右）



セミナー会場の様子

研究助成報告書

（概要）

9月17日（土）10：00～16：00に開催しましたカーフリーデーについて報告いたします。将来予定されているえちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れの場となる両鉄道の田原町駅旧サークル K 跡地で開催しました。目的は、広く生活者に対しクルマから解放される日（カーフリーデー）をアピールし、クルマ以外の移動手段を体験するとともに家族ぐるみでスローライフの実践、環境問題について考える機会を提供することです。

（内容）

実行委員会形式で開催することで準備段階における協働というモチベーションを共有しました。県内嶺北の交通事業者、田原町地域の NPO、環境系 NPO が実行委員として参加、福井県、福井市、中部運輸局福井支局、県バス協会が後援（名ばかりの後援ではなく、実行者として参画）という形で、互いの持ち分における協働の輪を広げながら実施しました。

具体的には、移動における運賃をバックアップするものとして、福鉄、えち鉄の子ども用フリー切符を一律 100 円、路線バス（福鉄、京福）の子ども運賃を 100 円としました。関連して、クルマ以外の移動手段での来場者には移動距離に応じた CO₂削減量を再認識してもらう意味合いでお米に換算して贈呈しました。会場におけるイベントとして、ミニ電車、バスの乗り方教室、自転車修理コーナーや 8 人乗り自転車の体験、田原町周辺のまち歩き、バス電車グッズ販売、電車・バス・まちづくり関連のパネル展示、エコ缶バッジ作成、野菜市、のりもの絵本の読み聞かせや紙芝居、ゴムボートによる川下り、オープンカフェ、別会場における講演会の開催と各種多彩なイベントを提供しました。



川下りの様子



ミニ電車で遊ぶ子供たち

（成果）

今回で 5 回目のカーフリーデーとなります。1 回～3 回は JR 福井駅前東口や西口、西武前のアップルロードで開催し、4 回、5 回と田原町 に場所を移して開催しています。JR 福井駅周辺は人の往来が多く啓発には適しています。カーフリーデー自体、周知された定着している取り組みではないことから、できるだけ多くの人に伝える目的のためには適した場所ですが、場所を変えての開催も試みようとして福井市

の交通の結節点として重要な地域である田原町を選択しました。ちょうど田原町ではえちぜん鉄道と福井鉄道の相互直通の拠点となることから交通まちづくりに対する意識が高いことや、福井大学との連携でまちづくり活動をしている「田原町デザイン会議」と「田原町商店街振興組合」とのあらたなパートナーを得て開催しました。実行委員会の開催場所は、田原町のまちづくり活動拠点である「たわら屋」のスペースで、7回行いました。

また、移動手段の核となるえちぜん鉄道、福井鉄道、京福バスとの連携に関しては、当初のころは割引運賃については会社の売り上げを損ねるので対応できないと、躊躇していた事業者でしたが、今ではカーフリーデーでの割引運賃は当たり前のサービスという状況にまで到達しています。この取り組みで割引運賃とすることで、利用者を増やし公共交通へ目を向けさせることが必要との考え方に変わりつつあるように思います。

福井市、福井県との連携という観点では、ここに来てようやくスムーズに連携（協働）が進められるようになったと実感いたします。その要因はカーフリーデーの開催が次第に社会的に認識されだし、マスコミも大きく取り上げている状況、NPO 中心に継続的に開催しているということから行政も社会的に意義があるイベントとして積極的な後援を行うと判断しているものと考えます。具体的には福井市は福井鉄道の沿線住民で構成するサポート団体の事務局をしていることから、イベント通貨を独自に制作・提供していただきました。福井県は自転車の利用を推進するという観点で、家庭にある自転車の無料修理を行うコーナーを請け負っていただきました。



田原町駅構内でイベント通貨提供（福井市）



福井県バス協会による「乗り方教室」

（課題）

今回のカーフリーデーの来場者は概ね300人と想定されます。当該事業はカーフリーデーという事業名称で田原町を会場として、9月17日はクルマ以外の移動手段※をこの機会に使いましょうという啓発行動です。そのため、できるだけ多くの人に伝えたいと考えていますが、1年に1回の事業では限界があります。また、事業の事前告知にも限界があり、集客を含めた伝達力が不十分という課題がひとつ。

2つ目の課題は資金です。経費を切り詰めても最低35万程度は必要です。企業広告を採る方法もありますが、それを行う人手の問題もあって事業を拡大することに二の足を踏んでしまいます。

最後にその人手の問題です。全員仕事を抱えての準備ということもあり、自身の業務をかなり犠牲にして活動している現実があります。しかしながら「継続は力なり」、微力ながら継続して開催したからこそ成果が上がっています。これからも、私たちの地域がもっと住みやすい環境になるよう活動を続けていこうと思います。

※当会ではクルマ以外の移動手段をホジロバ交通（ホ・歩行、ジ・自転車、ロ・路面電車、バ・バス）と呼んでいます。



作／漆崙 耕次

編集後記・・・編集委員より一言
林(変集長)

「新米(イクヒカリ)を食味検査したら77というハイスコアでした。(80以上で優良)はさがけ効果か?」

内田(発行責任者)

「今回はカーフリーデー一色ですね。これら活動を今後のまちづくりに生かすのが私たちのこれからの大きな仕事です。」

京都府 宮津市をぶらり散策

今回は、京都府の宮津市に行ってきました!

宮津市には、KTR(北近畿タンゴ鉄道)が運行しています。宮津駅に降り立ち、ぶらりとまちなか散策をしてみました。

宮津市を含む北近畿は、海岸沿いの谷間にあるわずかな平地を利用してまちが形成されています。そのため、自然とコンパクトシティになっています。宮津駅から徒歩で歩ける距離内に市役所、裁判所、高校、郵便局等の生活に必要な施設がそろっています。

私が宮津で感じた魅力は2つあります。1つ目は、魅力的な建物がたくさんあります。宮津市役所は、歴史を感じる外観でしたが、斬新なデザインがとても印象的です。まちなかにある教会は、窓のデザインが可愛くて魅力的です。

2つ目は、まちなかに「普通」があることです。まちなかには、おもちゃ屋さん等の個人商店があり、普通にお客様が入っていました。この「普通」が私にとって衝撃的でした。商店街で個人商店のシャッターが上がり、お客様が入っている。「普通」のことだけど、この普通を実現することが難しい地域はたくさんあります。宮津のまちの力を感じることができました。

私が宮津市を訪れた日は、近づいている台風の影響で悪天候でした。次回は、好天の日を訪れたいと思います。



〈宮津市役所〉



〈カトリック宮津教会〉

カーフリーデーに参加して

カーフリーデー当日は、設営準備のお手伝いや、福鉄のミニ電車の運転を担当させていただきました。たくさんの子供たちや大きなコドモ?まで、事故もなく皆さん楽しんで下さり、運転士として喜んでいます。今度は田原町から武生まで運転できたらいいなと私の夢です。P.S.ミニ電車の秘密基地にまた行きたいな・・・。

加藤力也

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3 TEL:0776-25-7968